



号者局 100 貴務 発行 第 29 年 3 月 20 日 飯 田 森 次 用 賀 ま ち づ ぐ り セ ン タ ー

生きてた言葉

私 は 毎 日 新 聞 や 雑 誌 を ぐ く 自 然 に 当 然 の よ う に 読 ん で い ま す。

ひろばの編集に携わって約12年になりますが、読み手と書き手の違いを痛感しています。

的確な言葉で限られた字数の中で、生きた文章を書く難しさを思い知らされました。

先日、私が関係している会合で、最近言葉が通じないことがある、と話題になりました。例えば「小一時間」「晴雨に関わらず」「向う三軒両隣」などです。これらは一昔前には普通に使われていました。なぜ通じなくなったのでしょうか。スマホやネット等通信技術は格段に進歩した現在ですが、交わされる言葉や文字は逆に貧弱になってしまったのでは？と思っています。

最後に、ひろばに投稿して下さいます。



新しい出会い

私が、ひろばに参加する様になってから、3年程になります。本場に短い期間で、自分がどれほど役にたつ事が出来たのか、確信が持てません。

いろいろな分野の方を訪ねて、執筆をお願いして回りました。皆様、お忙しいにもかかわらず引き受けてくださり、有難うございました。

そして、その原稿から多くを学びました。特に、昭和初期の生活や、郷土の歴史に興味がありました。ひろばの編集を通じて、新しい出会いと経験がありました。感謝致します。

ひろば100号編集に関わって

ひろばと歩んだ13年間

瀬田三画 栗野征子

私はひろばの瀬田地区担当委員を13年間務めました。大勢の皆様に原稿を頂き、沢山の方々と知り合う事ができました。ご協力を頂き有難うございました。

又、先輩委員の方々の豊富な知識とひろばを愛する姿から多くの事を学びました。

これまで文章を書く事が苦手だった私も、書く楽しさを知る事が出来ました。特に、飯田委員長の博識に感服し、新しい知識をいっぱい吸収出来る事が、毎回とても楽しみてました。

今回で34年間続いたひろばが終了となります。ホッとした反面、大変淋しい気持ちです。

ひろばで広がる世界

十数年前に、小学校のPTA活動の中で友人に勧められて、引き続き事になり参加しました。

ひろばは、用賀、用賀南上用賀、瀬田、玉川の五町会の集まりですので、各町会の話聞き勉強になりました。

それにも増して知り合いが増え、私の人生に色を付けてくれました。

「隣は何をする人ぞ」の風潮の濃い中で、町でお会いしてもにっこり挨拶できるのは嬉しいことです。

これからも、いつでもどこでも、誰にでも「こんにちは」と声をかけようと思っています。

100号までの編集に関わって

再出発

甲賀出版所 北本三千代 三子玉川分室長

ひろばは百号、おめでとございます。初めて寄稿させて頂いた皆さま、最終号と伺い、今迄の皆様のご尽力に頭が下がります。お疲れさまでした。

二子玉川分室は高島屋からライズの現地に移転して、六年近くとなりました。そして、平成三十二年には分室から二子玉川出張所となり、玉川四丁目に移転します。まちづくりセンターや、あんしんすこやかセンター等と同じ建物になります。

今迄以上に地域に近い窓口として再出発します。これからどうぞよろしくお願いいたします。

木洩れ日

飯田恭次

ひろばは本号が最終便になります。適れば創刊は昭和五十八年十月一日でした。当時の用賀出張所は玉川第五出張所と呼ばれ、場所も玉川台二丁目にあった頃です。広報紙名称は「たまご通信」等の案もありましたが、この町で暮らす皆様の心と心を結ぶ役目を果たす事が出来ればとの願いを込めてひろばとなりました。年三回の発行を続けて、十年一昔と云うならば三昔の歳月を歩んで来ました。その間、編集担当者も逐次交替、全号を通じての留年組は私一人になってしまいました。

読者の皆様にも「共に支える町」「わが故郷」「私たちの町」昔、今、これから「等々の原稿をお寄せいただき紙面を盛り上げていただきました。心より御礼を申し上げます。

この町で生活する人は日々移り変わりますが、町は引越したくないし、多摩川の清流、国分寺崖線に続くみどり、馬事公苑、砦公園、世田谷美術館等々の公共施設にも恵まれ、田園都市線、大井町線、東名高速、首都高三号線他交通アクセスに便利な私たちの町を大切に育て、次の世代に引き継ぎたいものです。

永い事ご愛読をいただき、本当に有難うございました。



ひろば 永い間ご愛読 有難うございました

回覧

# 郷土紹介

## 大山道のあしあと(十三)

平田良孝  
(本名 飯留恭次)

昭和三十年代を迎えて、東京郊外は急速に住宅地化していきまふ。然し、この辺りは未だ農村風景が、あちこちに残り、野菜畑の西の方には遠く富士山、丹沢山塊の左端に三角形の大山が良く見えていました。

農家の人達による雨乞い行事はなくなりましたが、大山講と云う型で時折、観光を兼ねた団体での大山参りが行われました。

そして、車時代の到来、国道二四六号線の整備拡幅、東名高速道路の開通等によって東京から大山への時間距離は大幅に短縮されました。

た。かつて、相模の丘陵を上り下りしていた大山道の影は全く薄くなりました。

遠い奈良時代、足柄峠を越えて東国へ、又、中世から江戸時代、矢倉沢往還として旅人に親しまれて来た大山道は、今、所々にその足跡を僅かに残すだけです。

昭和四十年、丹沢、大山は環境庁より国定公園に指定され、昨年四月には文化庁より、新たに日本遺産に認定されました。

四季折々の装いで迎えてくれる相模の大山へ、今年、小さな旅は如何ですか。

十三回に亘って、急ぎ足で迎って来た本シリーズは今回を以って筆を擱かせていただきます。

永い間お付き合い有難うございました。

四巻折々の装いで迎えてくれる相模の大山へ、今年、小さな旅は如何ですか。

十三回に亘って、急ぎ足で迎って来た本シリーズは今回を以って筆を擱かせていただきます。

永い間お付き合い有難うございました。

## アノログ筆耕32年

上賀賀 折原淳子

世界が音をたてて変わりつつある今、この手書きのミニコミ紙ひろばは、ゆったりと34年の時を刻みながら、迎えた100号です。

振り返って思う事の一つに、初代編集委員長を務められた故鈴木武一さんから「紙面のどこかに必ず花の絵を入れて」と言われた事があり、その事は「と欠かさずに続けて参りました。

私はひろば3号から筆耕として参加させて頂きました。だが、当時のひろばのトップに載っているのは編集委員長の文章で、七五調のリズムで綴られているものでした。

そこで、このリズムが生

## 新世代へ

さるように、書き方も行変えをしてリズムをつけてみましたところ、「次の発行日はいつですか」とあちこちで聞かれる程、この欄の愛読者が増えた様です。

毎号、紙面を埋める文字数約3300字、B判、4冊、横罫の原稿用紙に書いてきました。

ある時、「もつと大きく書いて縮小したのですか」と聞かれた事があり逆に、そういう裏技も有ったかと思ったりした事や、寄稿者のお人柄を想像しながら書いてきた事など楽しい思い出となりました。

これからは、新世代が創るミニコミ紙が、この町に新しい風を扇けて下さることを期待しつつ……。



三井総合支社長 小浜由祈子

ミニコミ紙「ひろば」の記念すべき100号の発刊、誠に改めてとうございます。

これまで地元の広報活動にご尽力いただきました皆様に、心より敬意を表し、深く感謝申し上げます。

改めて、昭和58年10月創刊号から現在までの「ひろば」を拝見いたしますと、各号に心温まる手書きのイラストが入り、まちの情報や歴史などを読みやすくまとめられた文章とともに、携わってこられた皆様の地元への深い愛情が伝わってきます。この温かさは、地域のとよとして、まちづくりをはじめ様々な活動に関わってこられたからこそこの情

報発信だと思えます。地域コミュニティを推進していくためには、皆様の力は無くしてはならないものです。

100号でひと区切りとうかがいましたが、今後、新たな形で地元の情報を多くの方々に発信していただくことを期待しております。

結びに、用賀出張所地区の益々のご発展と皆様のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



## ひろば編集にたずさわった方々

編集委員長

鈴木 武一  
飯田 恭次

編集委員

(五十音順)  
飯田 恭次  
池田 良夫  
大坪 智恵子  
折原 淳子  
鈴木 堅之  
鈴木 敏章  
染野 征子  
高橋 佳一  
高橋 澄子  
千野 昭江  
平井 夏子  
柳田 文雄  
山田 修一

筆耕・カット

折原 淳子  
小杉 恵美子  
田中 整

編集委員会の構成メンバー

・編集委員長  
・用賀出張所地区の5地区町会より各1名の委員  
・筆耕  
・用賀まちづくりセンターから  
担当職員の方3名で  
合計10名です。  
・最終号に関わった  
事務局担当職員  
石井 正純  
石澤 政浩  
白木 里美